【将来推計人口についての比較】

今回は 国立社会保障・人口問題研究所が 2018 年に公表した 2020 年～2045 年の 5 年毎の市区町村別将来推計人口データに基づく分析です。
将来推計人口データに基づきマップソリューション株式会社で作成した将来推計患者数データ及び将来推計要介護者数データも合わせて分析しています。

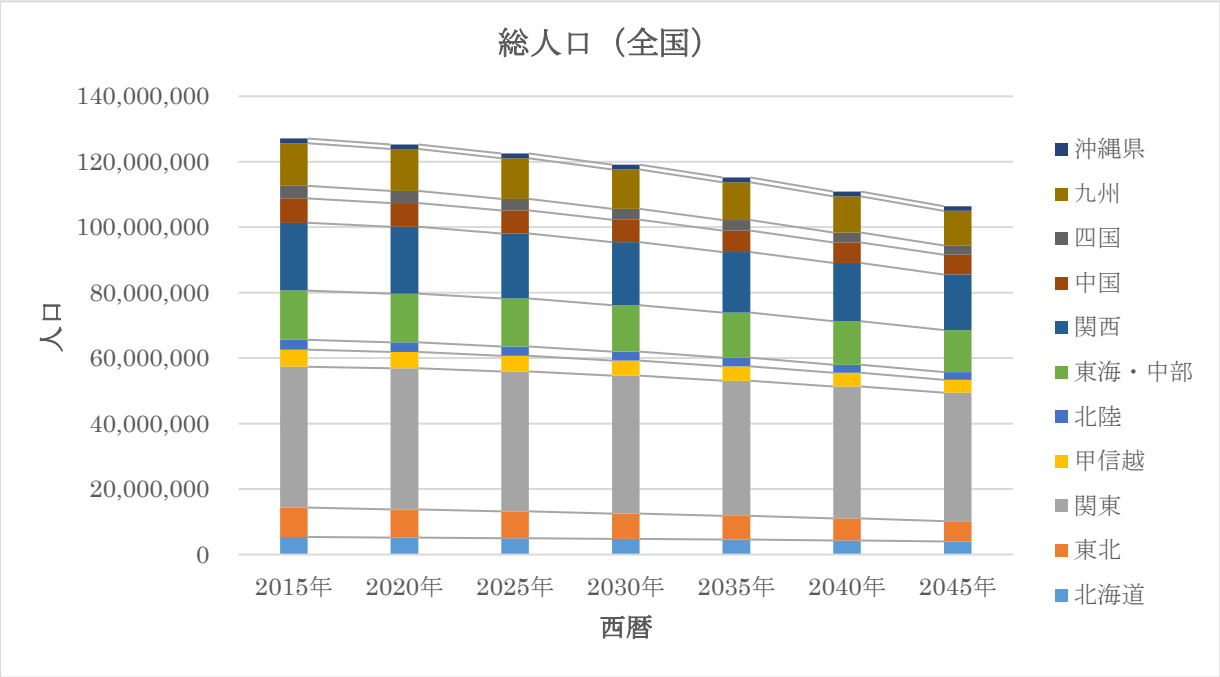
将来推計人口、将来推計患者数、将来推計要介護者数と分けてご紹介していきます。

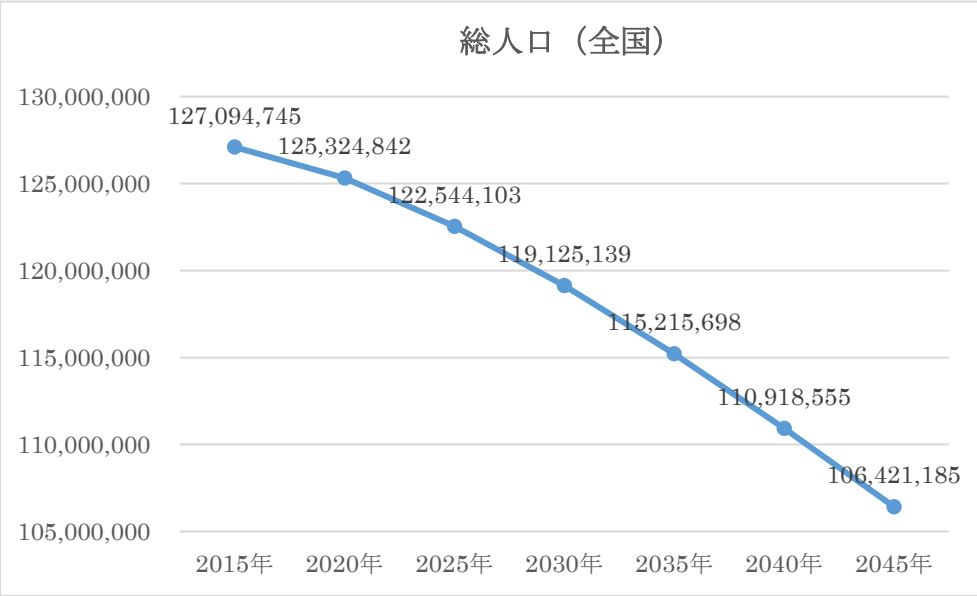
【将来推計人口】

2015 年の国勢調査データを基準に推計された　2020 年から 2045 年の市区町村別将来推計人口データを分析しています。

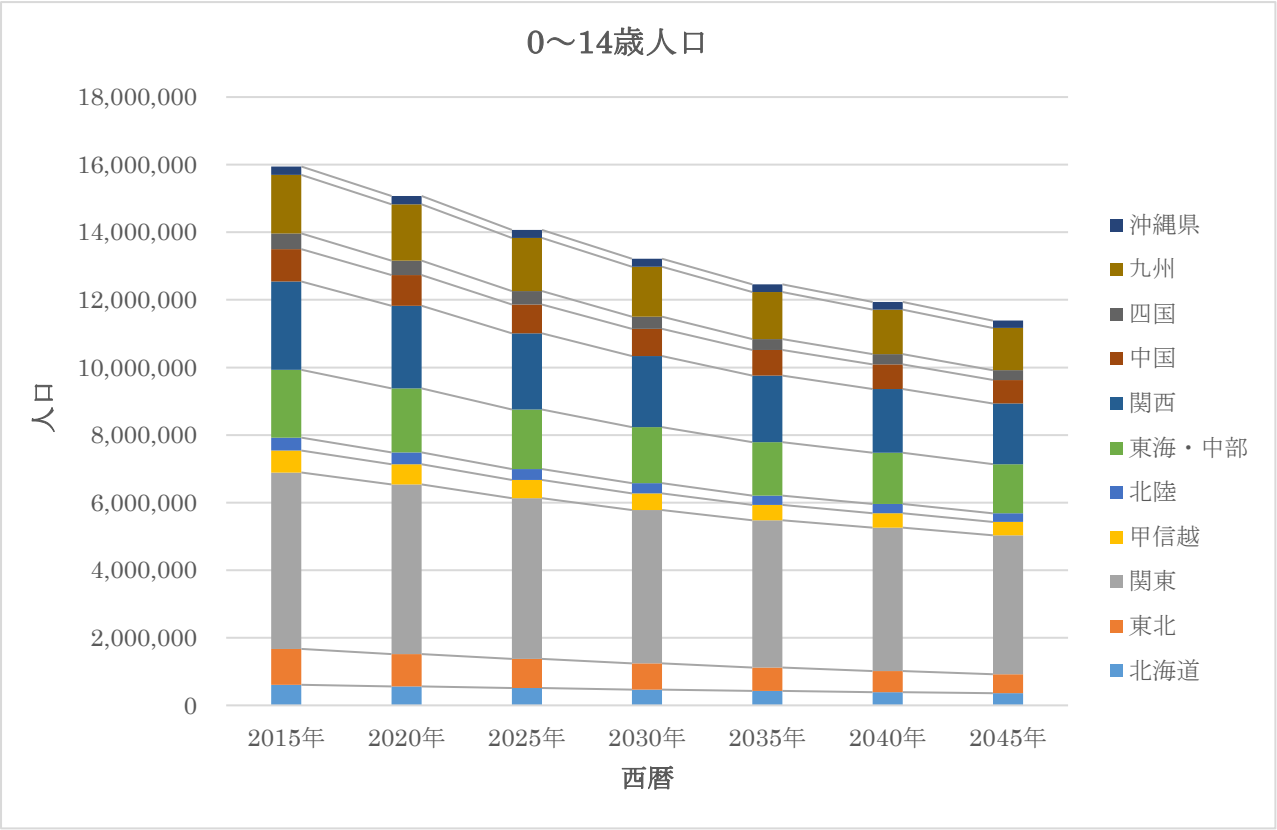
1．全国の将来推計人口

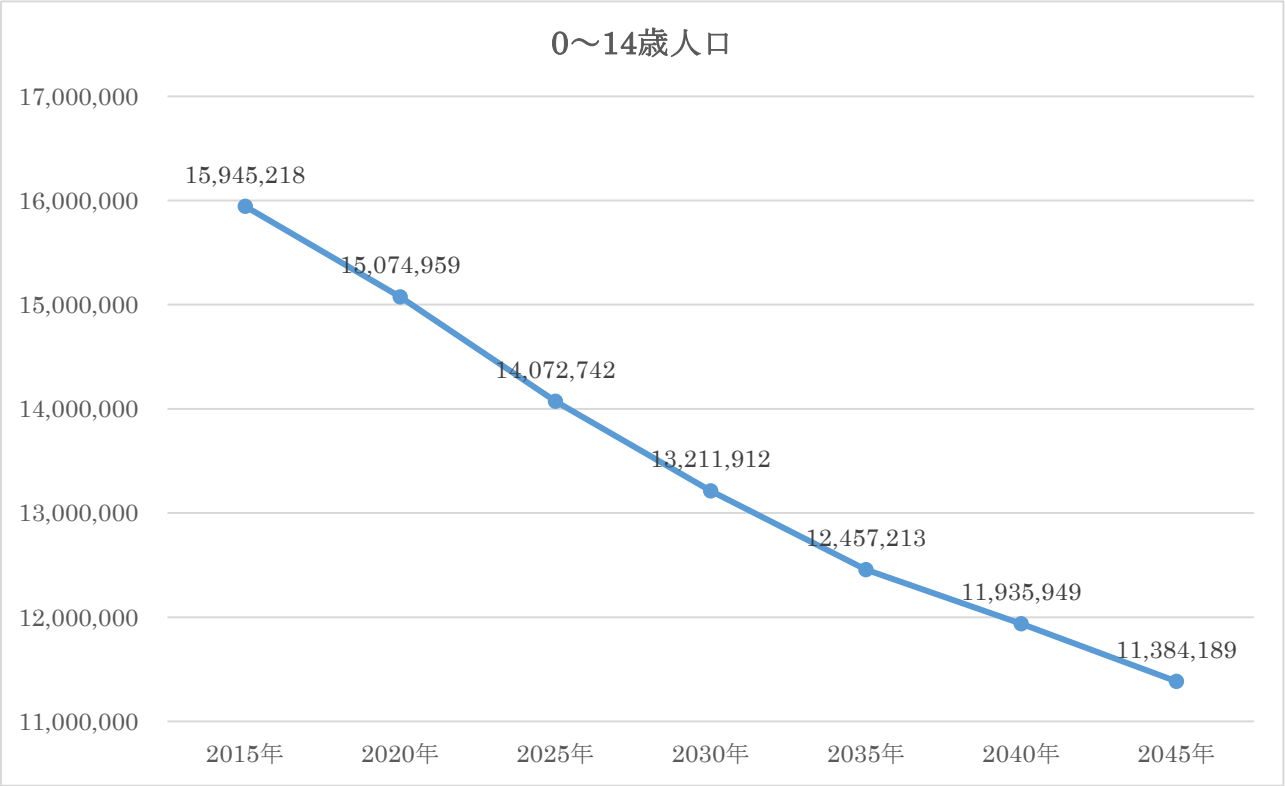
・総人口は　2015 年の 1 億 2709 万人から　→　2045 年には 1 億 642 万人まで　▲2,067 万人、比率で▲16.2%大幅に減少する。



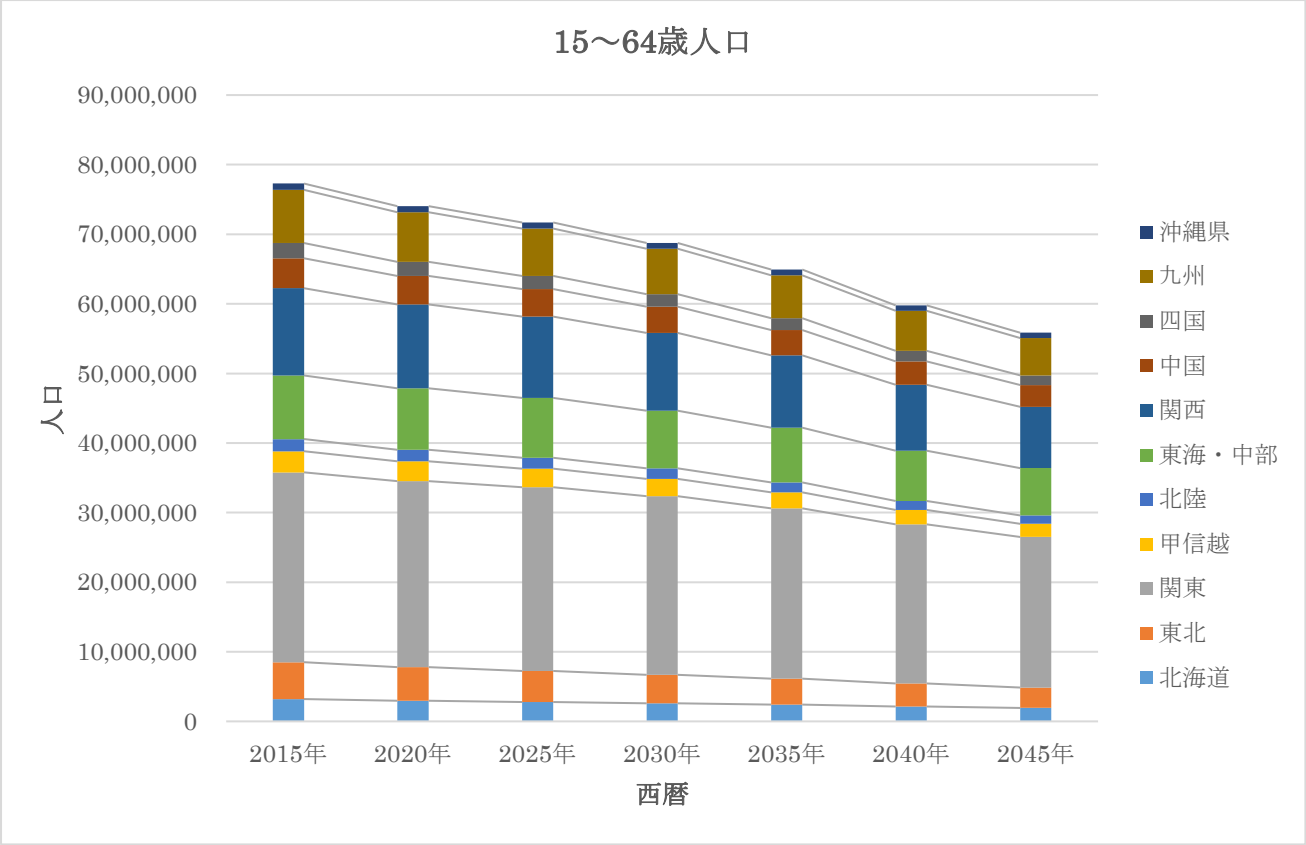


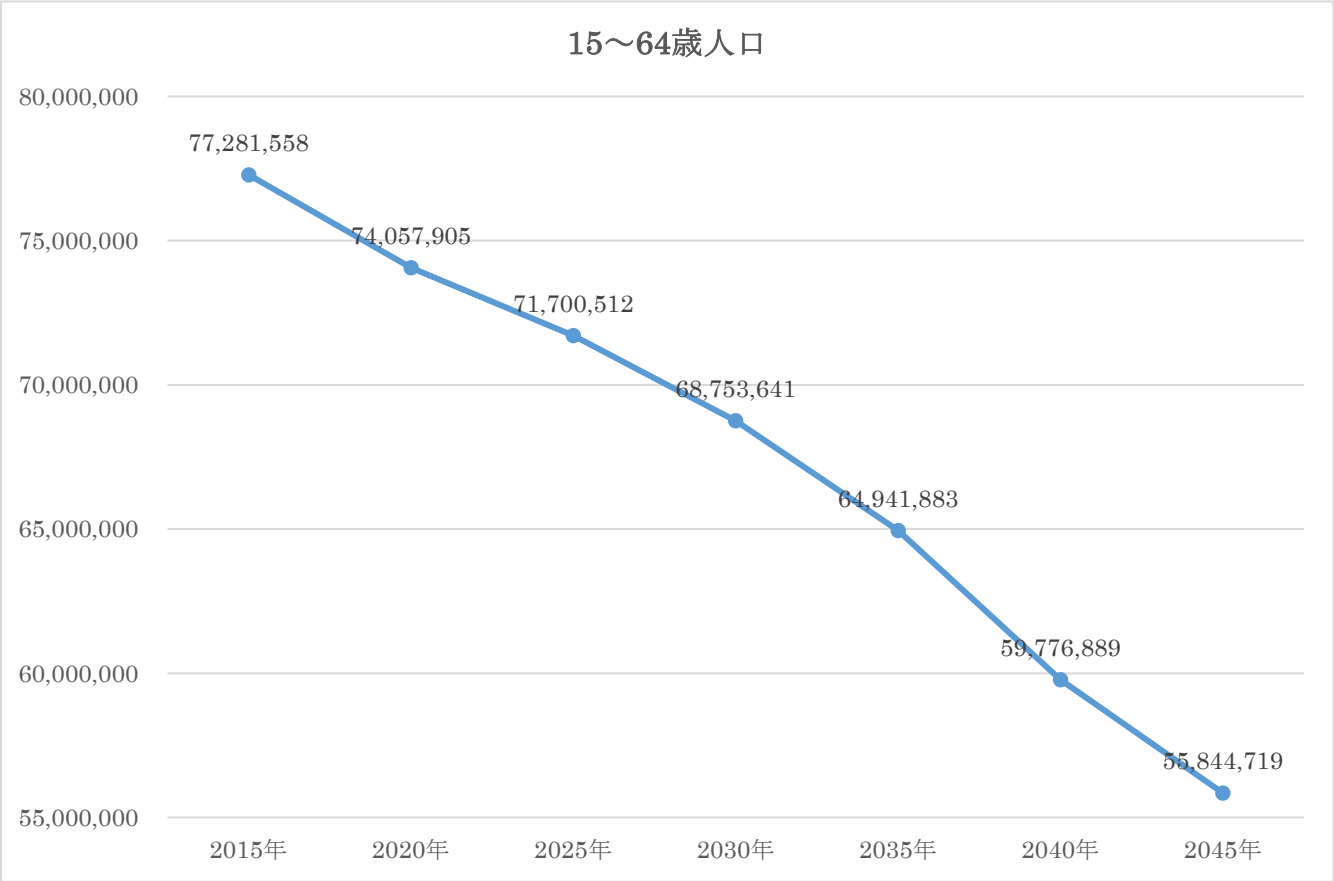
・15 歳未満人口は　2015 年の 1,595 万人から　→　2045 年には 1,138 万人まで　▲457 万人、比率で▲28.7%大幅に減少する。



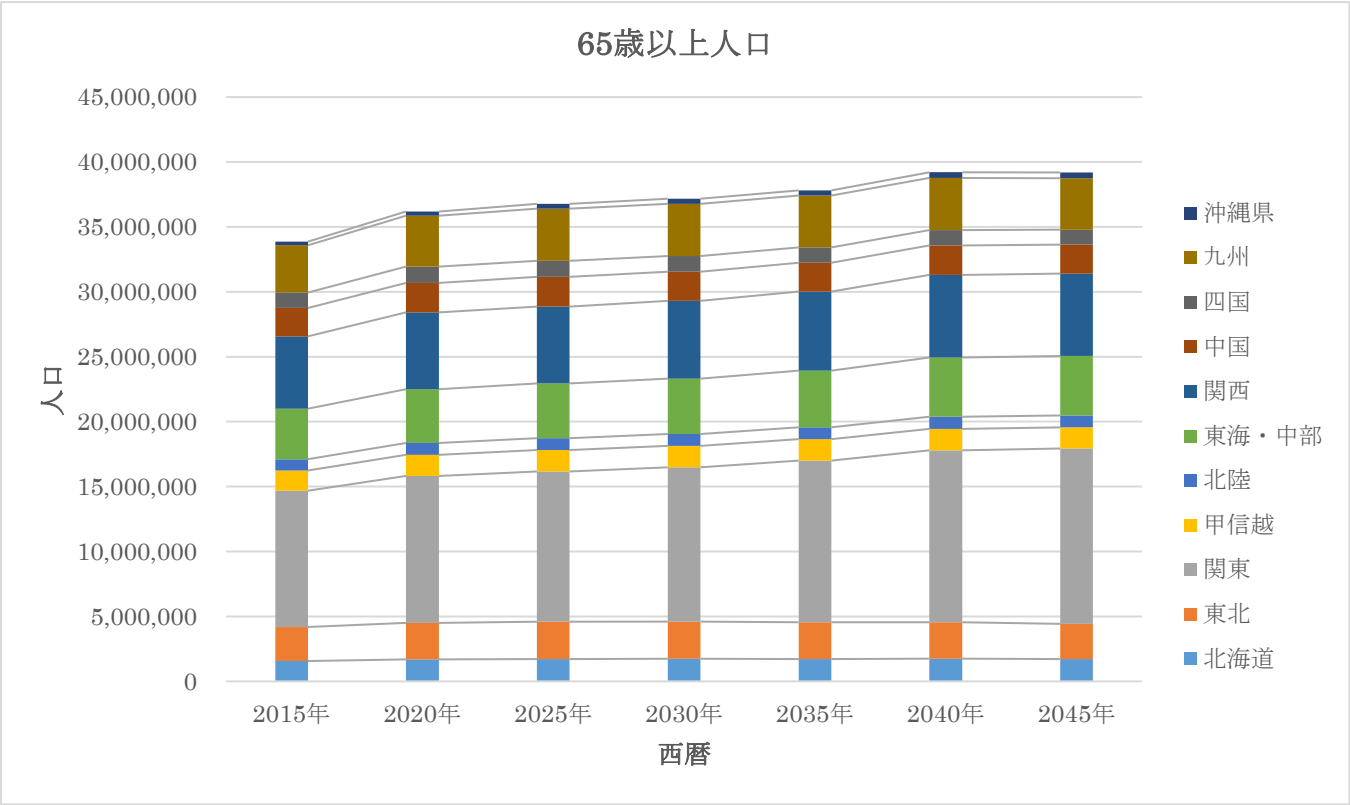


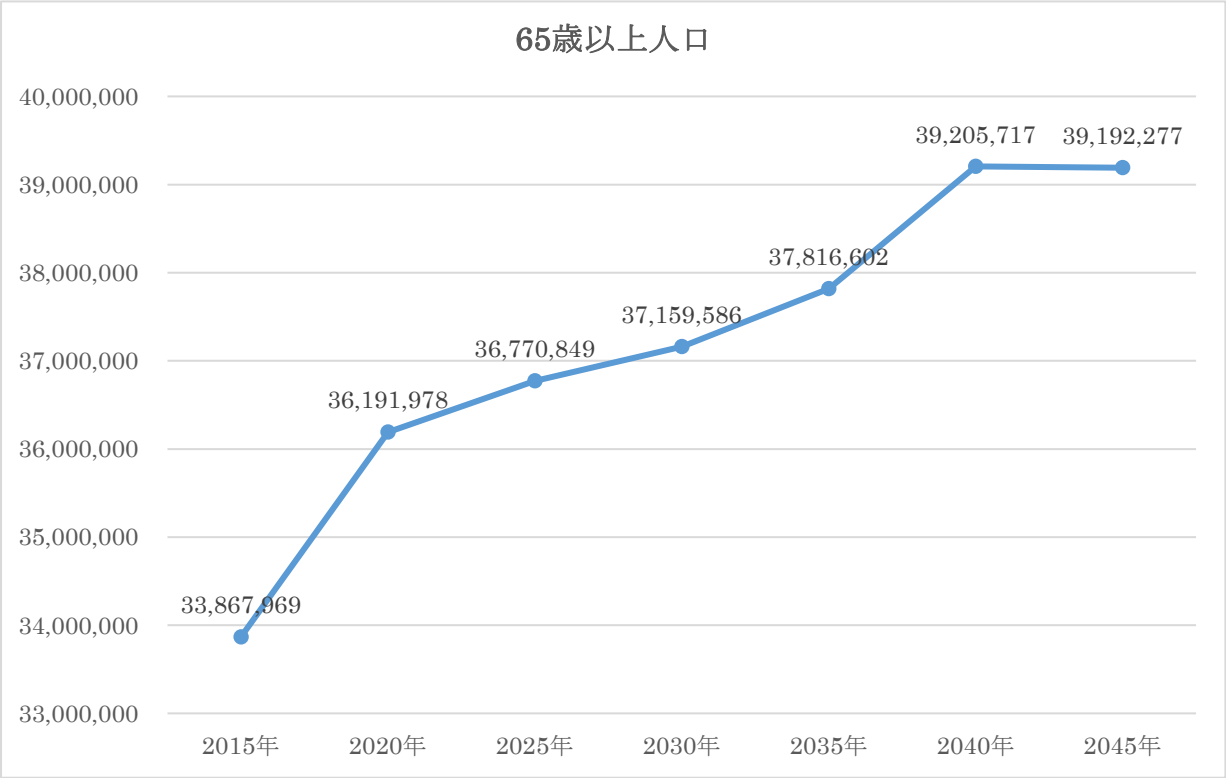
・生産人口（15 歳～64 歳）は　2015 年の 7,728 万人から　→　2045 年には 5,584 万人まで　▲2,144 万人、比率で▲27.7%　大幅に減少する。



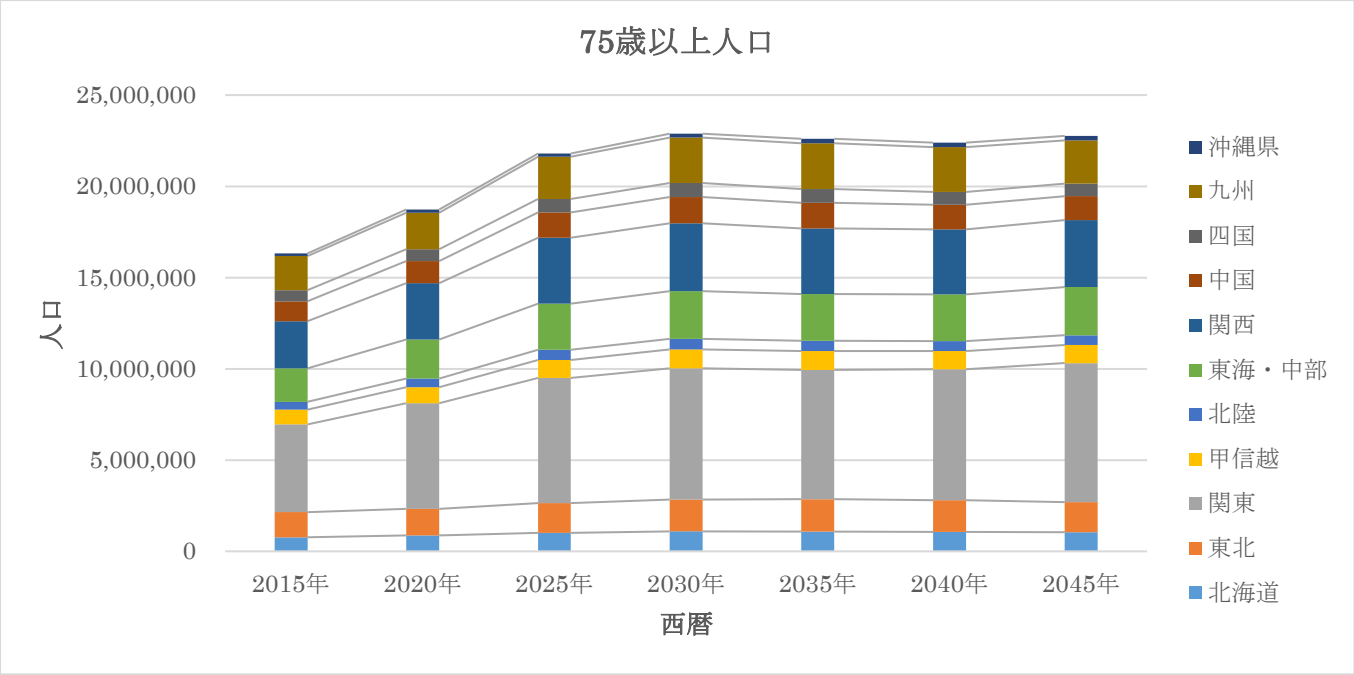


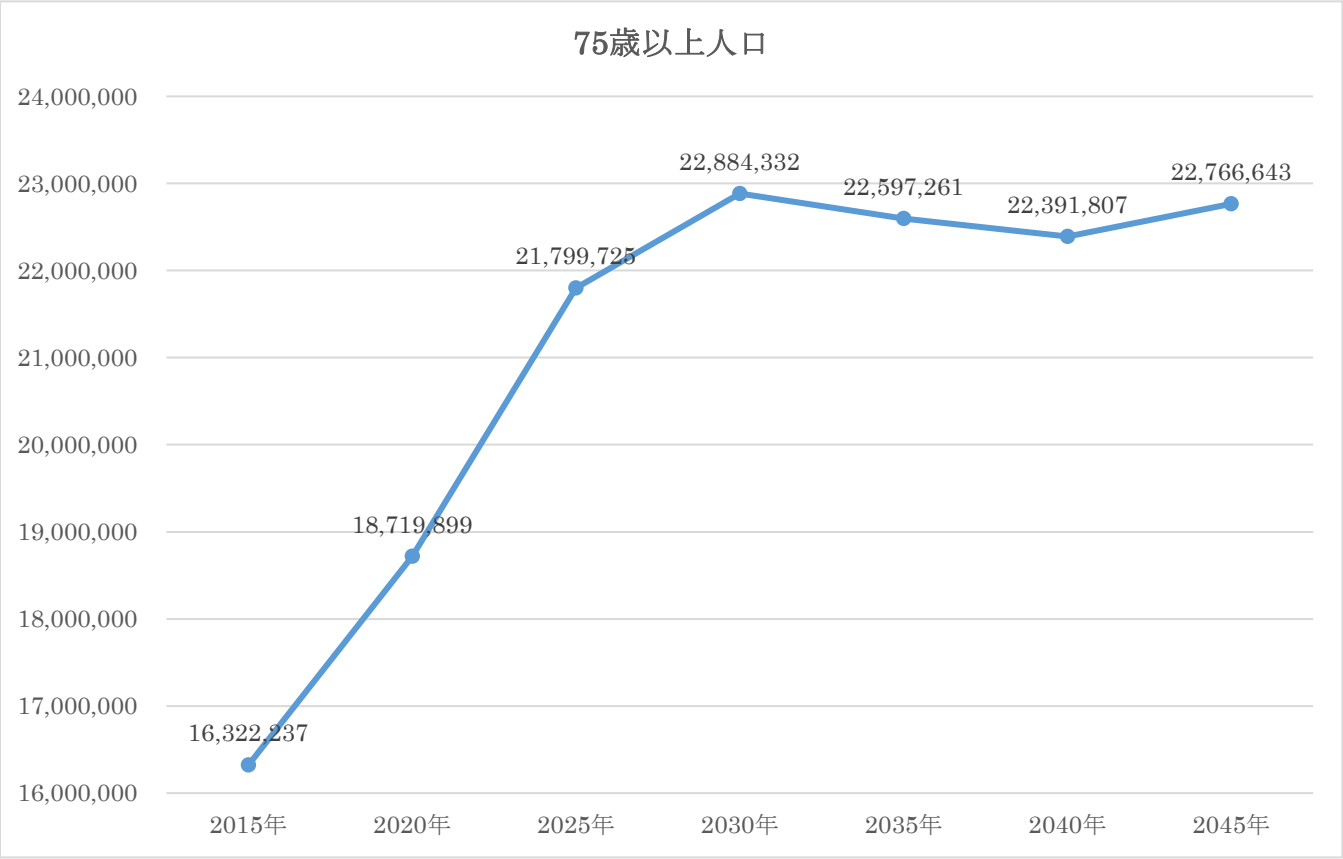
・高齢者人口（65 歳以上）は　2015 年の 3,387 万人から　→　2045 年には 3,919 万人まで　＋532 万人、比率で＋15.7%　大幅に増加する。
尚、高齢者人口は 2040 年まで増加するが、その後　飽和状態となる。





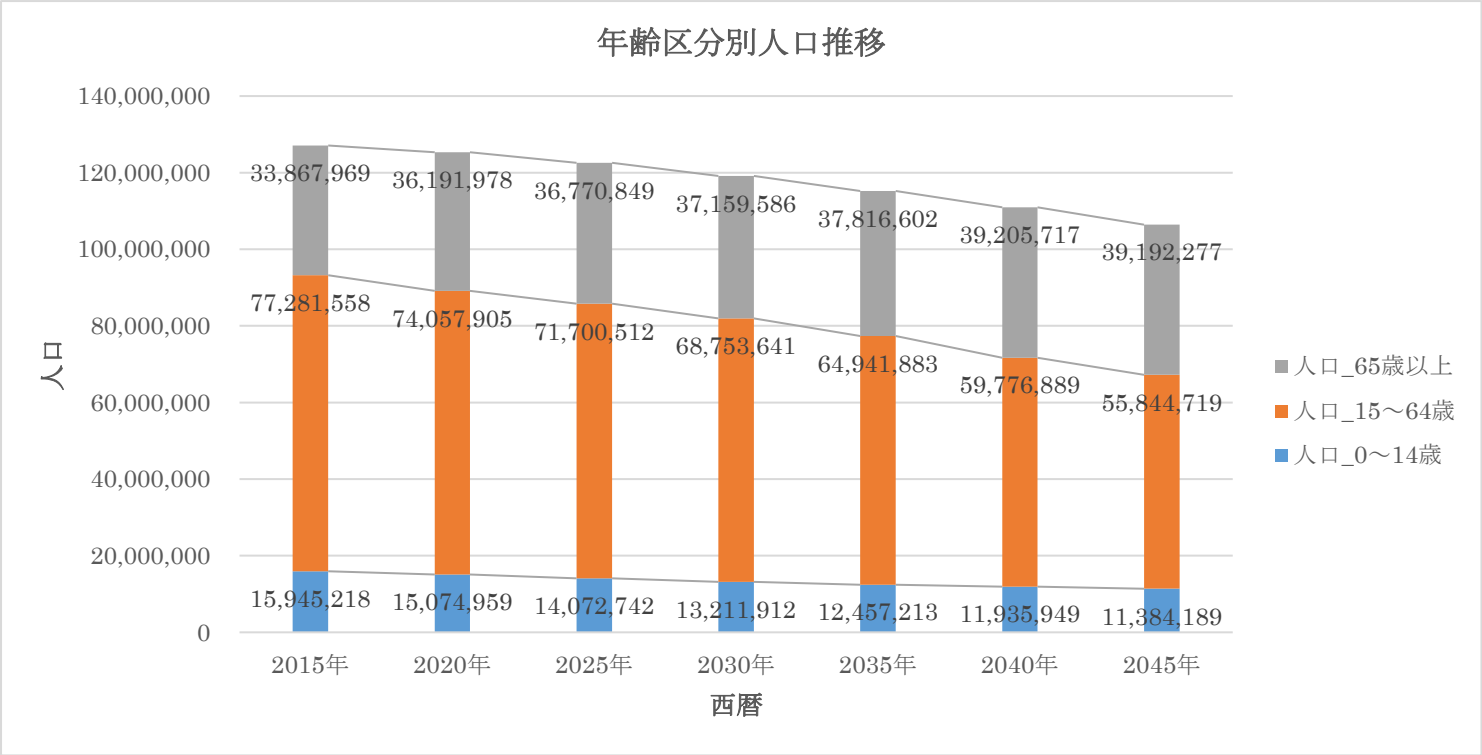
・後期高齢者人口（75 歳以上）は　2015 年の 1,632 万人から　→　2045 年には 2,277 万人まで　＋645 万人、比率で＋39.5%　大幅に増加する。
尚、後期高齢者人口は 2030 年まで増加するが、その後　飽和状態となる。





・上記年齢区分別人口の推移

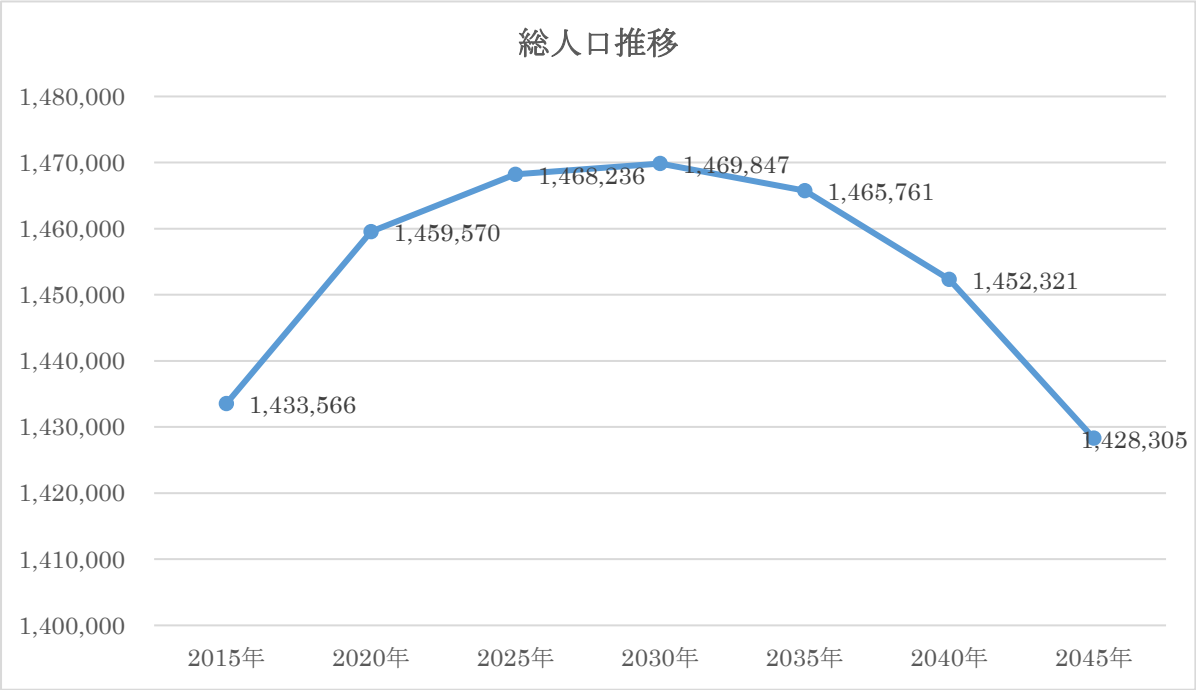
生産人口は減少し、団塊世代が 65 歳を超えることになり高齢者人口が増えていきます。



２．地方別の将来推計人口

地方別に見ると推移は異なります。

・総人口は大方の地方では減少傾向にあるが、唯一　沖縄だけは 2030 年まで増加が続き、その後減少に転じる。



・医療、介護の需要が高まる後期高齢者人口（75 歳以上）は次の様なパターンに分かれます。

① 2035 年をピークにその後減少に転じる　…　九州、東北

② 2030 年をピークにその後減少に転じる　…　四国、中国、北陸、甲信越、北海道

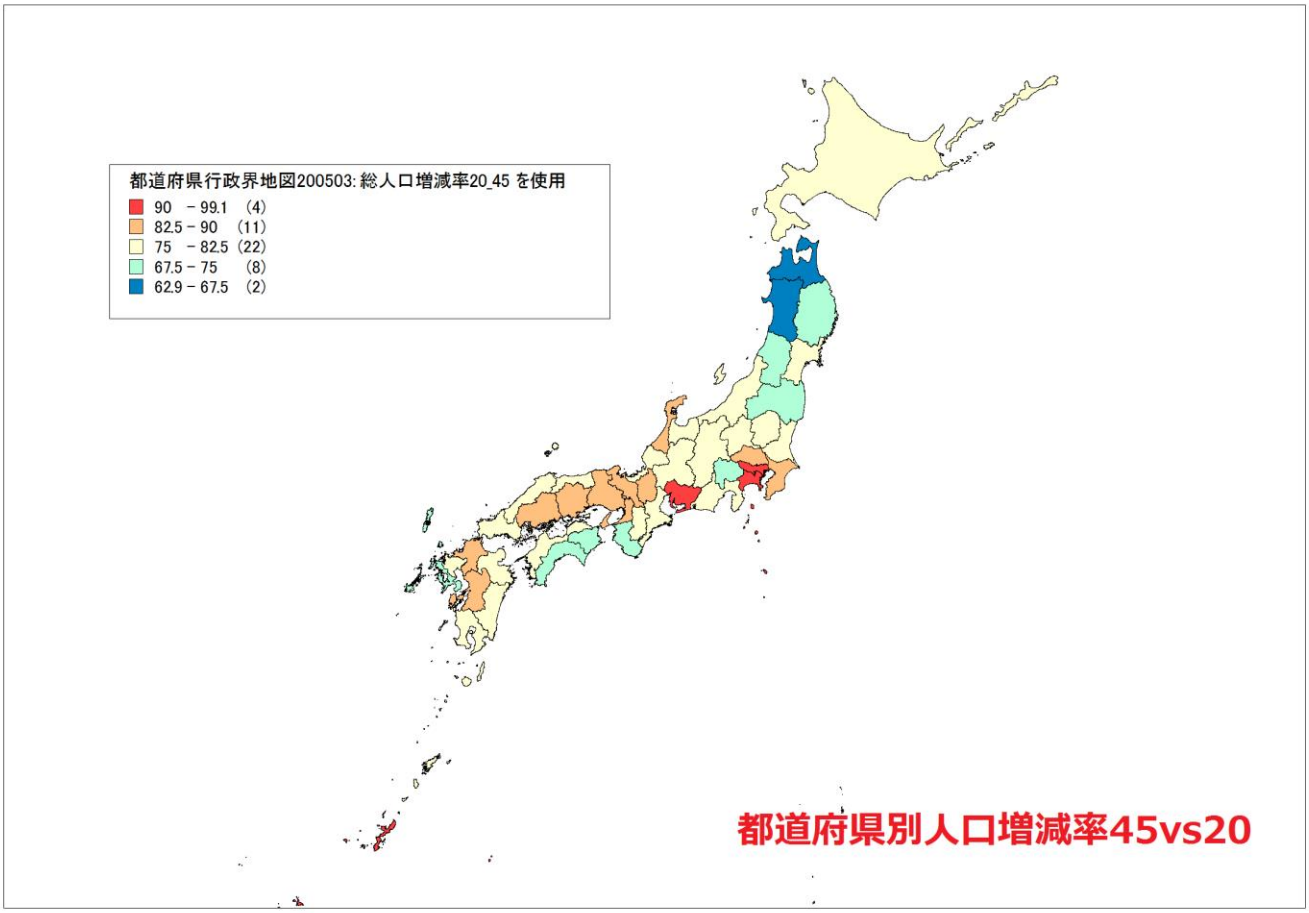
③ 2030 年をピークにその後飽和状態となる　…　関西、東海・中部

④ 2030 年に極大となり、飽和状態後 2040 年から増加に転じる　…　関東

⑤ 常に増加傾向にある　…　沖縄

3．都道府県別の将来推計人口

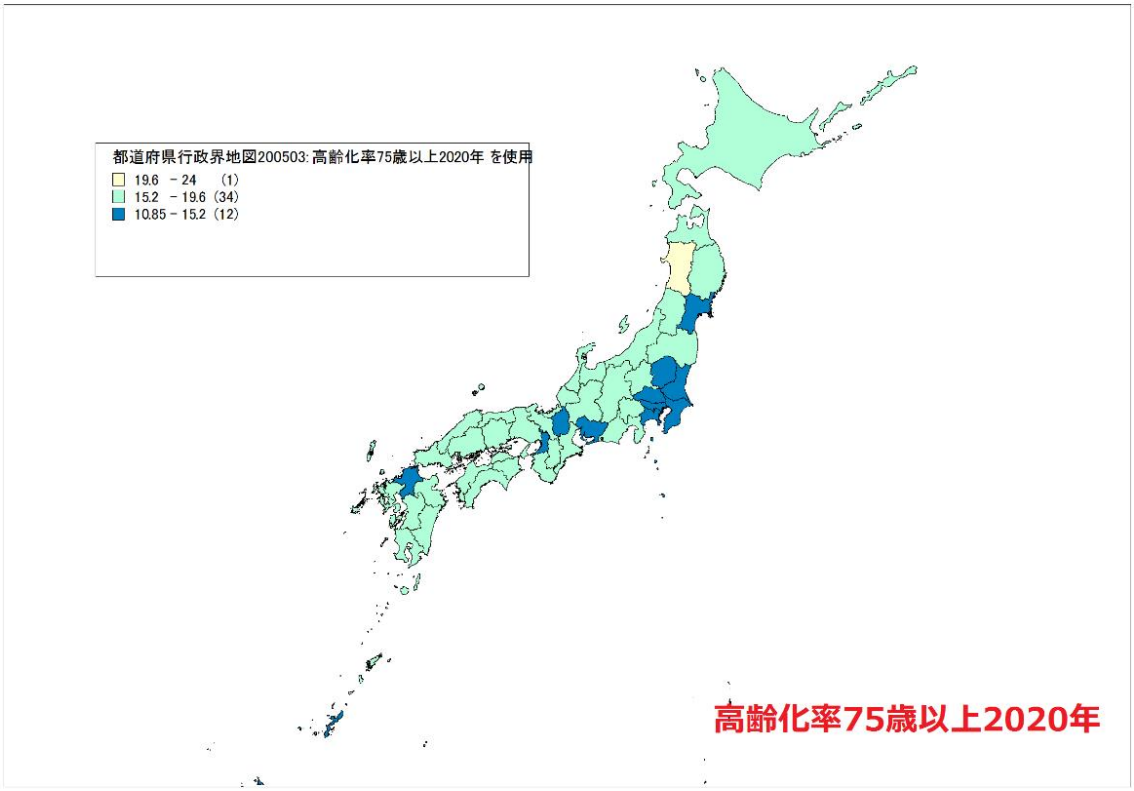
①総人口の 2020 年に対する 2045 年の減少傾向を表した主題図



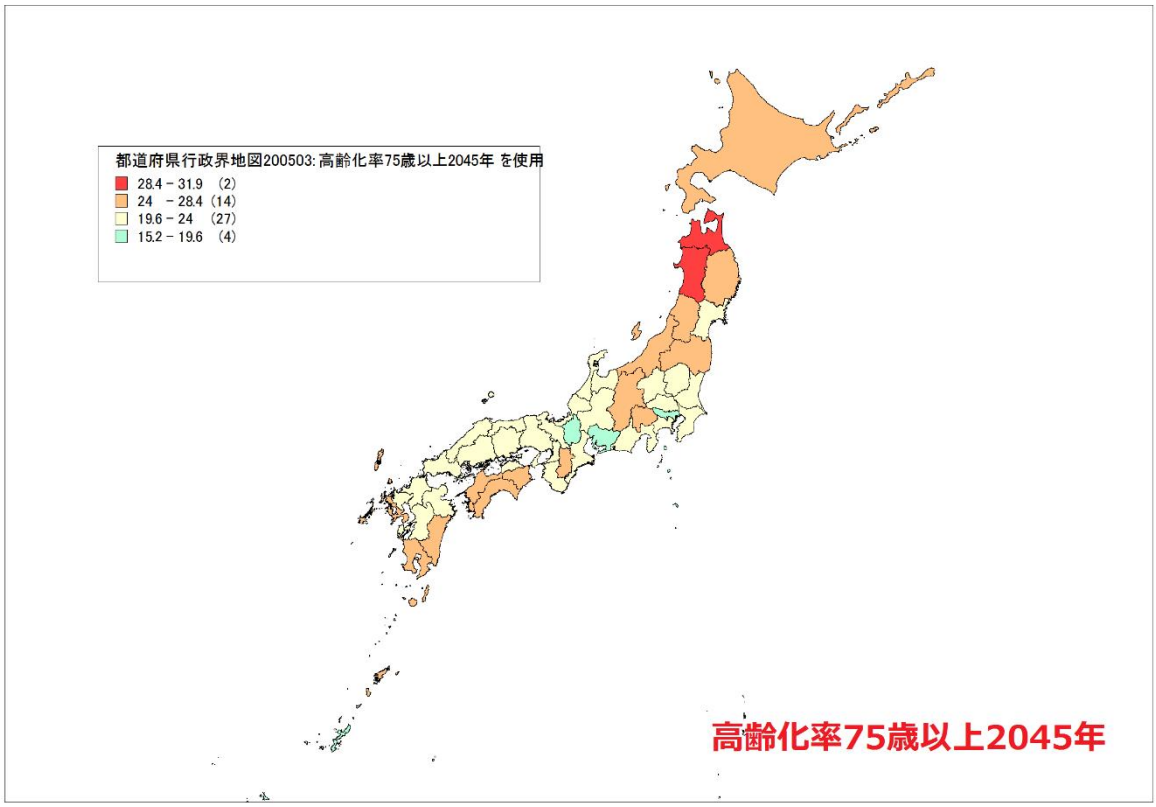
・東京、神奈川、愛知、沖縄は▲10%以内の減少に留まっている

・宮城を除く東北、和歌山、徳島、高知は▲25%以上の大幅減少となる

②後期高齢者の後期高齢化率について 2020 年と 2042 年の主題図



2020 年の後期高齢化率は全ての都道府県で 24%以下である。特に、宮城、群馬を除く関東、愛知、滋賀、大阪、福岡、沖縄は 15.2%以下である。



2045 年の後期高齢化率が 16 道県について 24%を越えている。特に、青森、秋田は 29%を越えている。

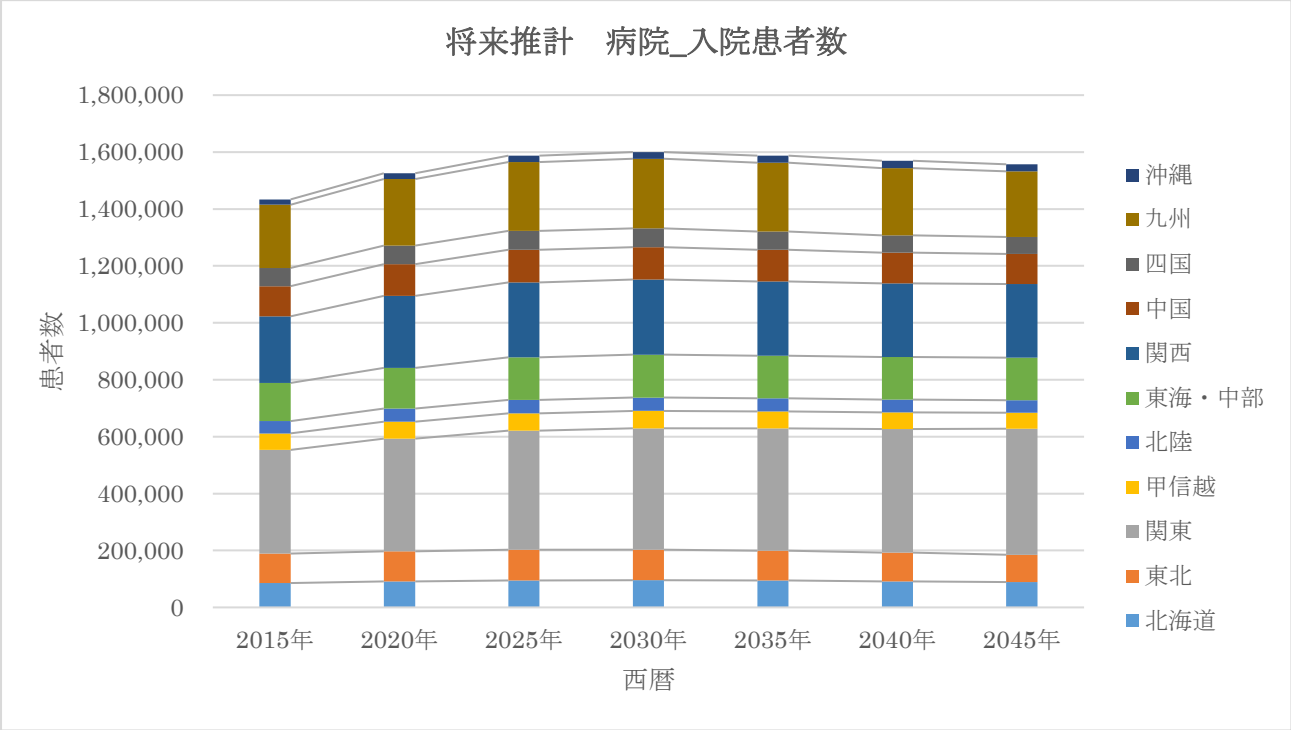
【将来推計患者数】

2020 年～2045 年の市区町村別将来推計人口に基づき作成した将来推計患者数データを分析しています。

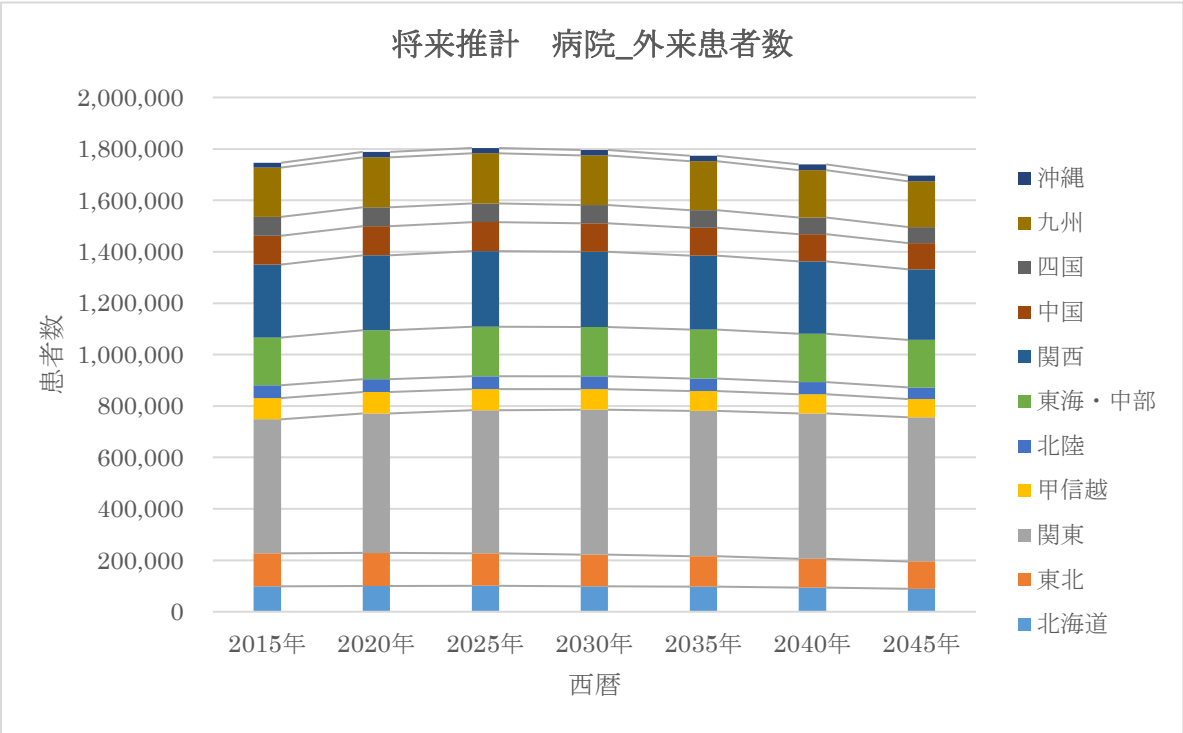
1．全国の将来推計患者数

病院の入院患者数、外来患者数　及び　診療所の外来患者数の将来の推移を分析しています。

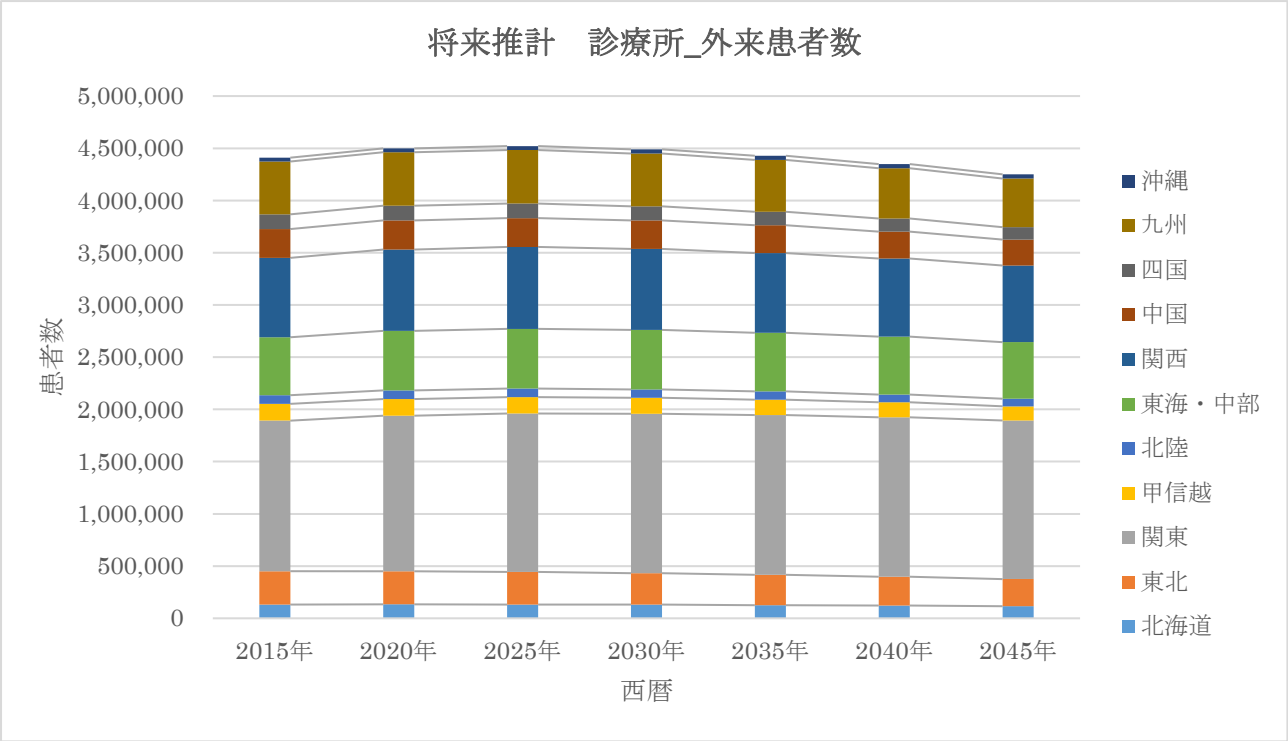
① 病院の入院患者数は 2030 年にピークに達し、その後 暫減します。



② 病院の外来患者数は 2025 年まで増加し、2030 年以降　減少に転じます



③ 診療所の外来患者数は 2025 年まで増加し、2030 年以降　減少に転じます。

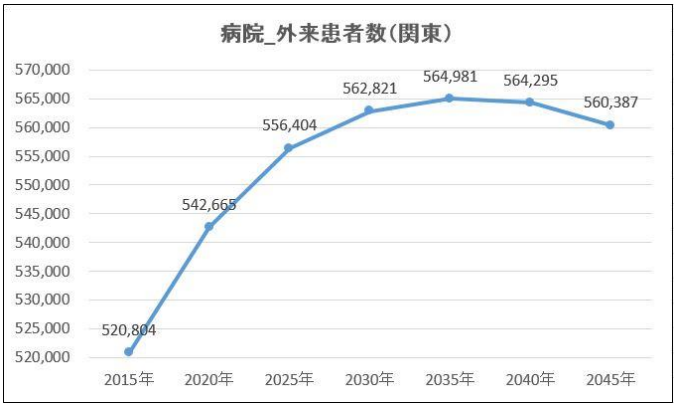


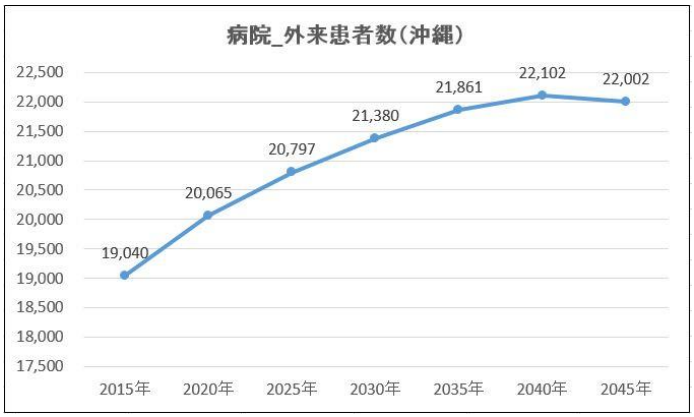
２．地方別の将来推計患者数

地方別に患者数の推移は異なります。

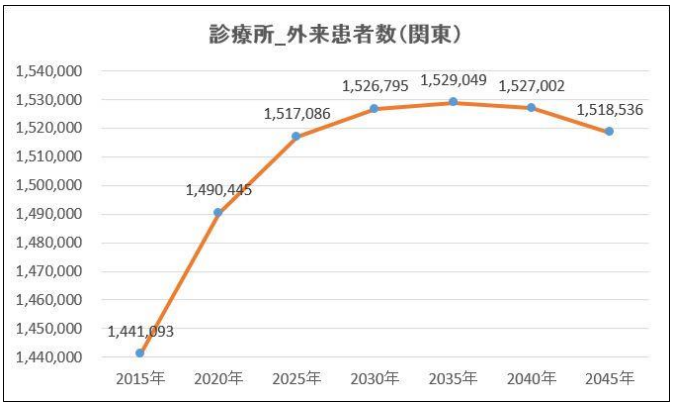
① 関東、沖縄は、病院・入院患者数は常に増加します。

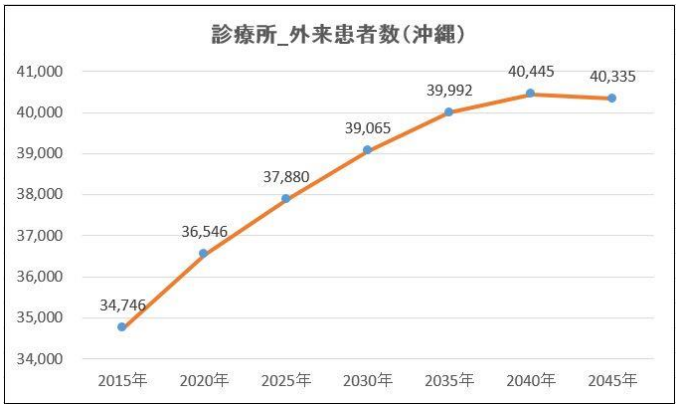
病院・外来は 2035 年又は 2040 年でピークを迎えます。



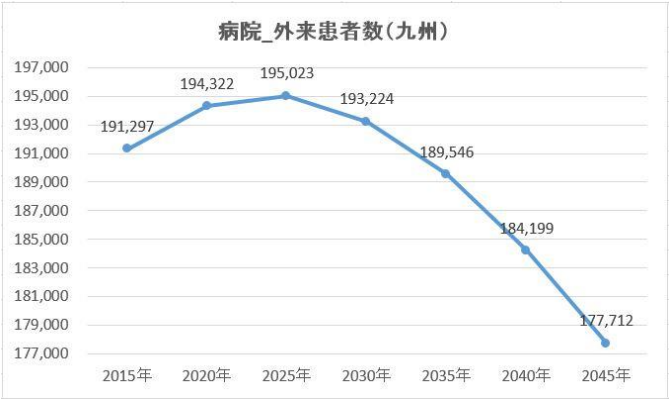


その後暫減、診療所・外来は 2035 年又は 2040 年でピークになり、その後暫減します。

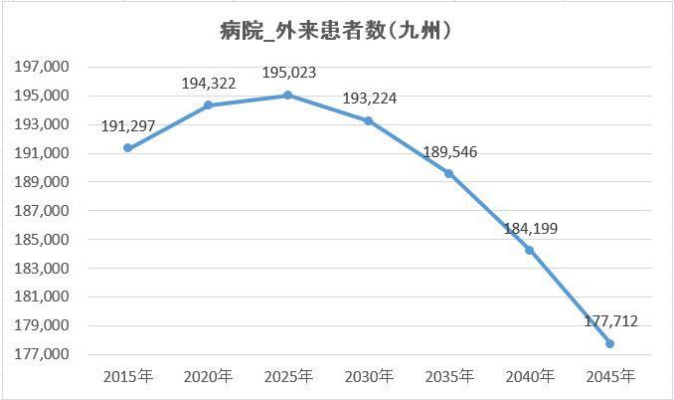




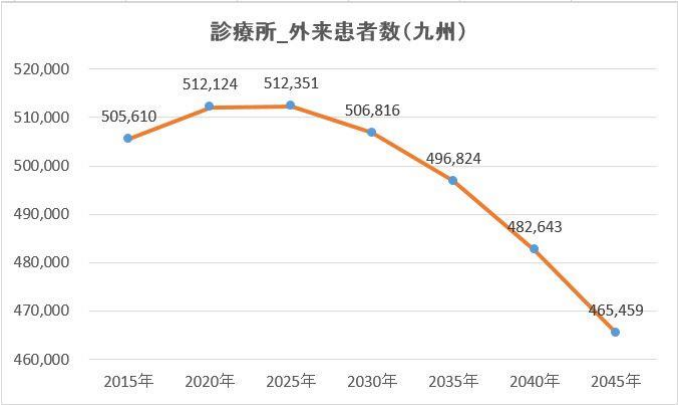
② 九州、北海道は、病院・入院患者数は 2030 年でピークを迎え、その後減少します。

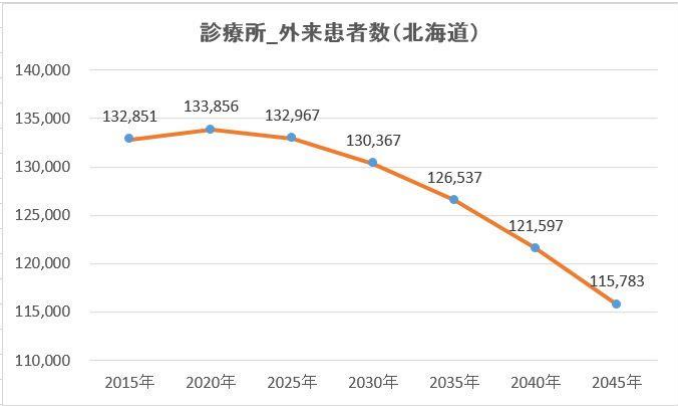


病院・外来は 2025 年又でピークになり、その後減少します。



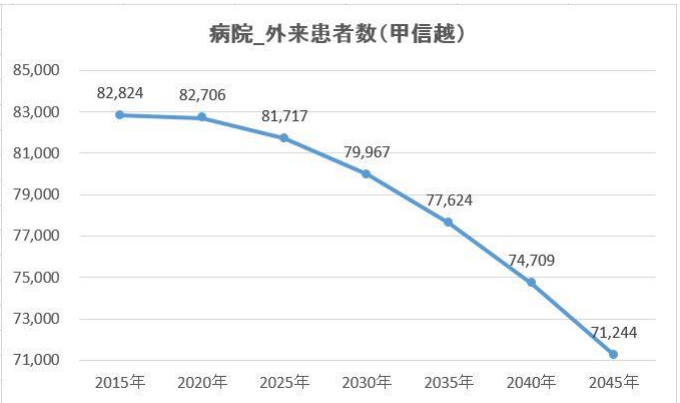
診療所・外来は 2025 年又は 2020 年でピークになり、その後減少します。

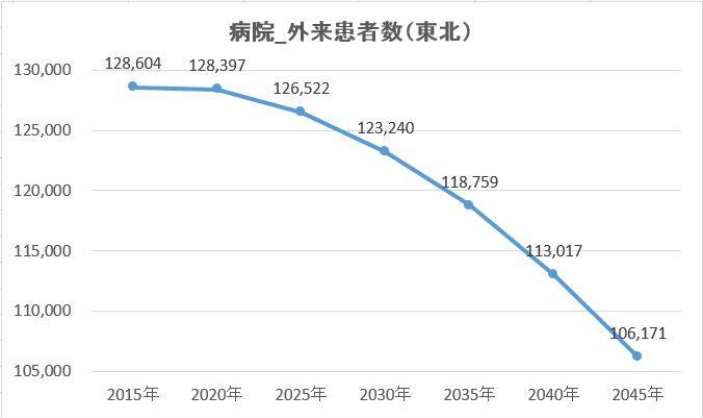




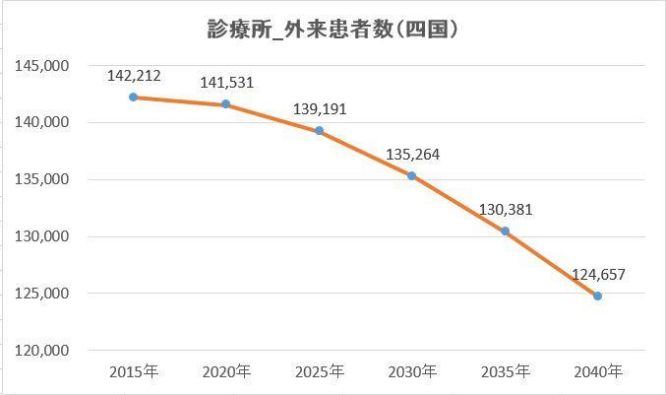
③ 四国、甲信越、東北は、病院・入院患者数は 2025 年でピークになり、その後減少します。

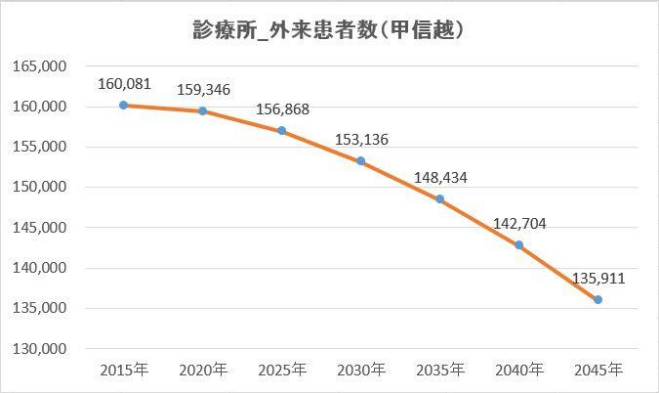
病院・外来は 2025 年又でピークになり、その後減少します。

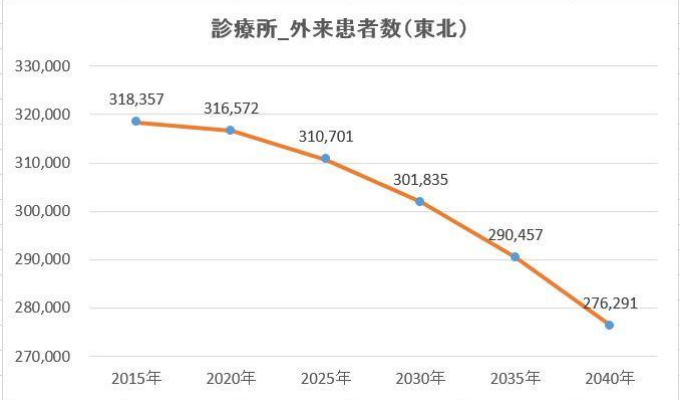




診療所・外来は 2025 年又は 2020 年でピークになり、その後減少します。

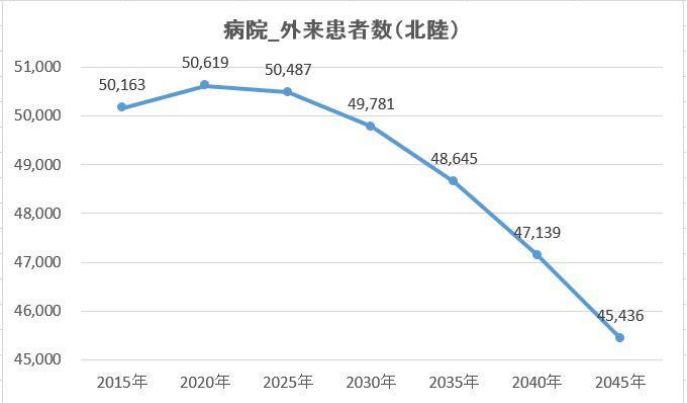




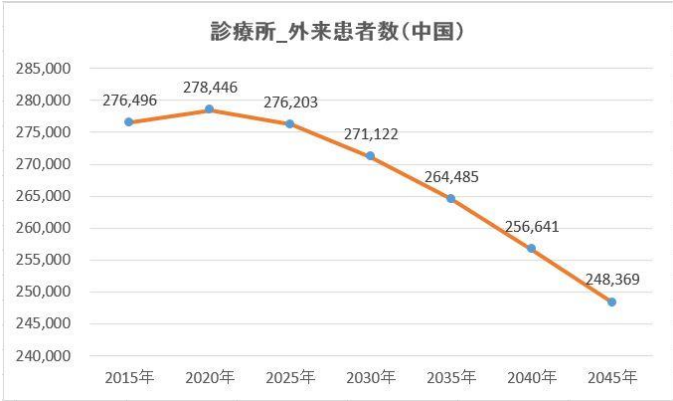


④ 中国、北陸は、病院・入院患者数は 2025 年でピークになり、その後減少します。

病院・外来は 2020 年又でピークになり、その後減少します。



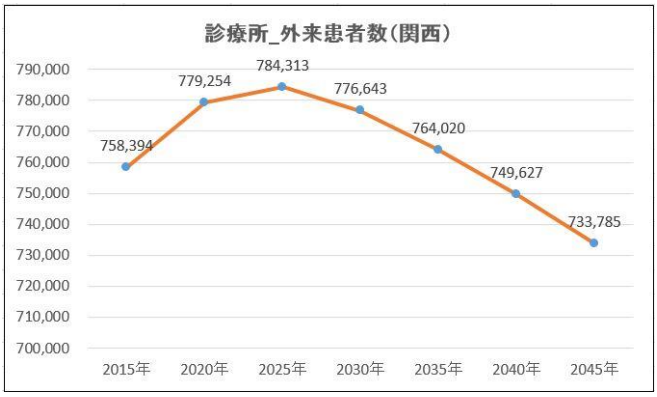
診療所・外来は 2020 年でピークになり、その後減少します。

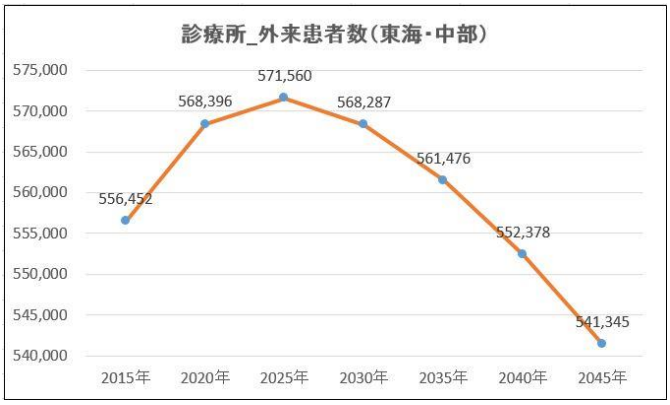


⑤ 関西、中部は、病院・入院患者数は 2025 年又は 2030 年でピークになり、その後飽和状態になります。

病院・外来は 2025 年又でピークになり、その後減少します。

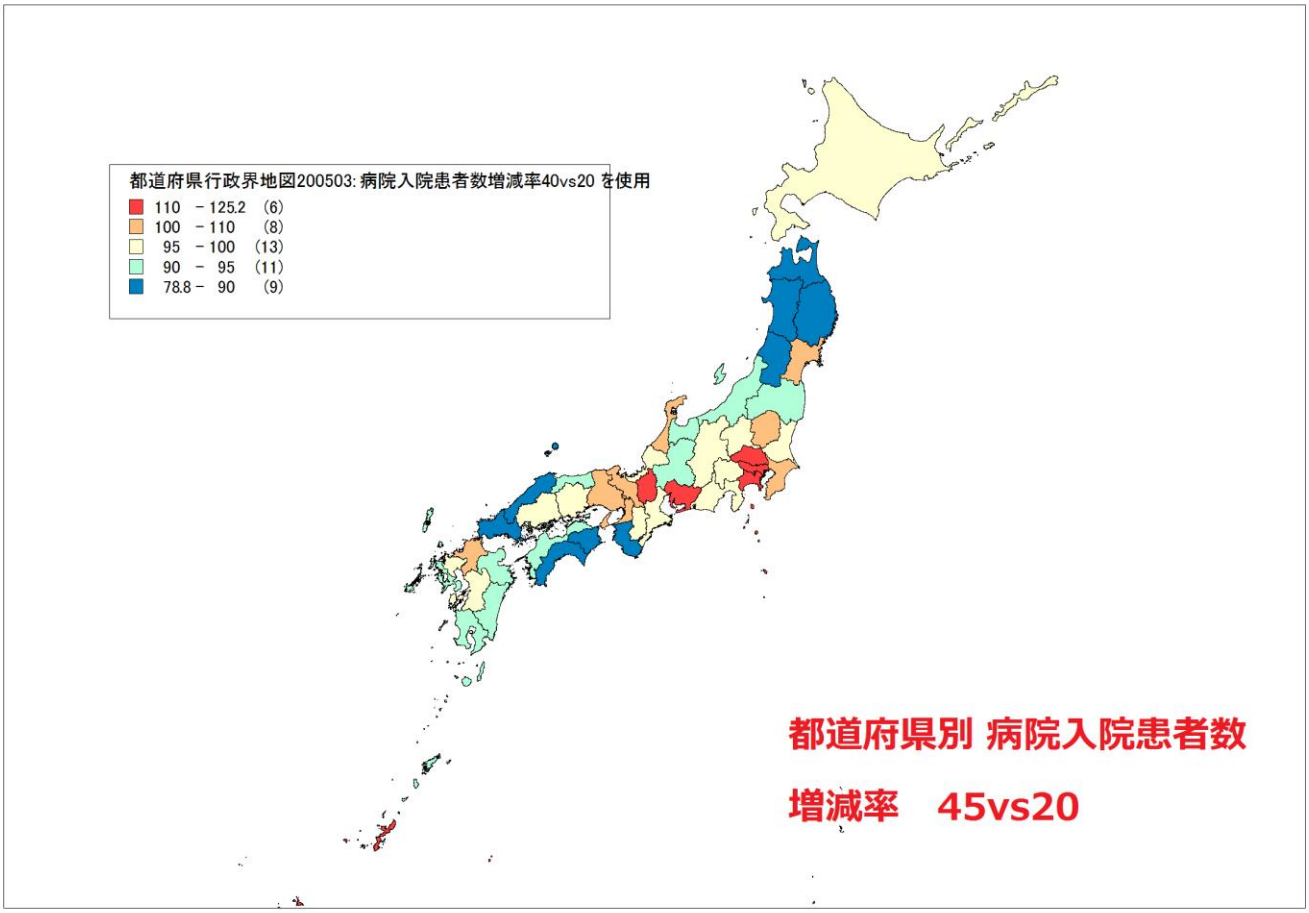
診療所・外来は 2025 年でピークになり、その後減少します。





３．都道府県別の将来推計患者数

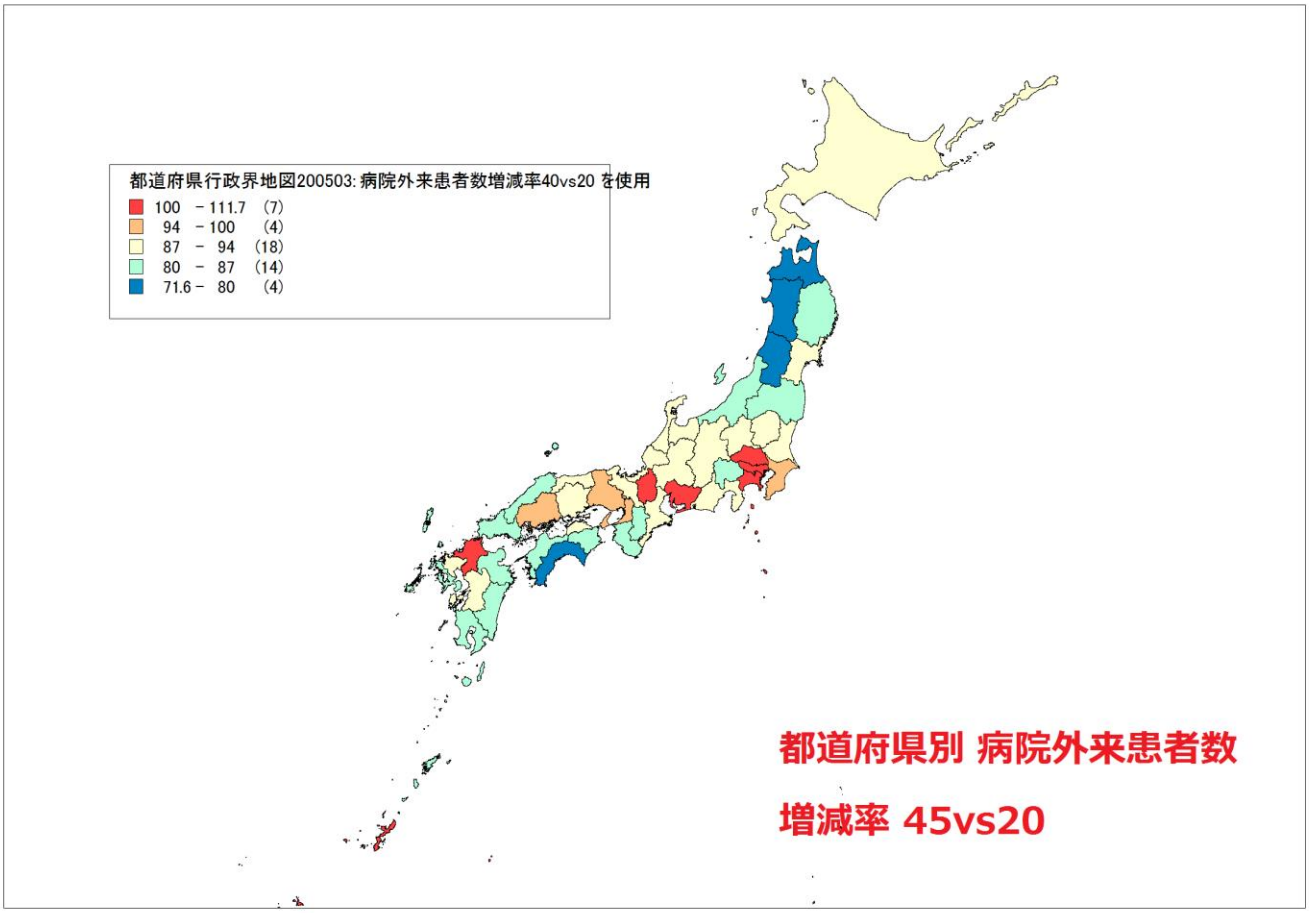
① 病院・入院患者数の 2020 年に対する 2045 年の増減状況の主題図



・14 都県が増加しており、中でも東京、埼玉、神奈川、愛知、滋賀、沖縄の 6 都県は＋10%以上増加する見込みとなっている。

・33 道府県が減少しており、中でも青森、岩手、秋田、山形、和歌山、島根、山口、徳島、高知の 9 県は▲10%以上減少する見込みとなっている。

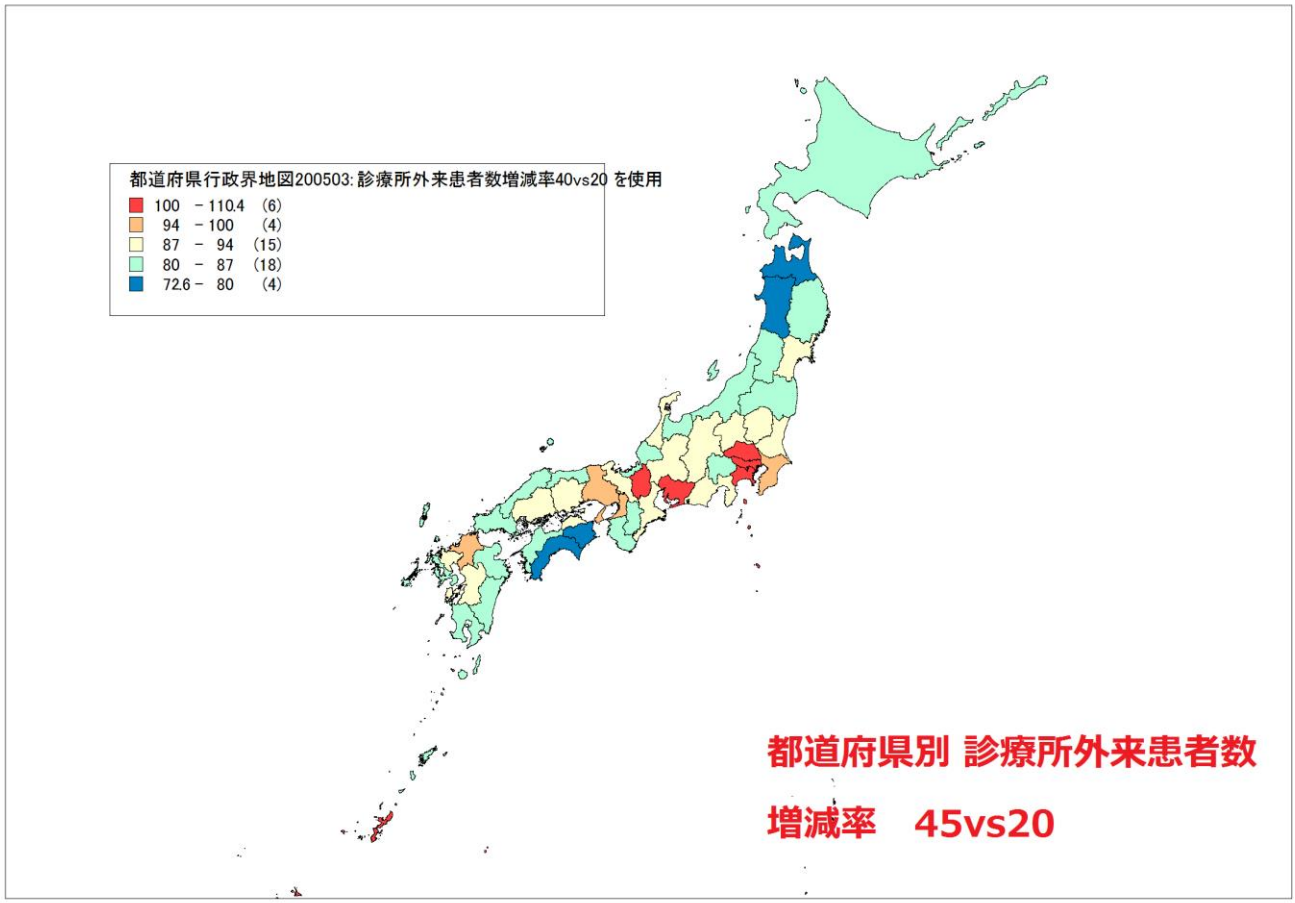
② 病院・外来患者数の 2020 年に対する 2045 年の増減状況の主題図



・7 都県が増加している。内訳は、東京、埼玉、神奈川、愛知、滋賀、福岡、沖縄。　病院・入院患者数は+10%以上増加している都県にほぼ対応している。

・それ以外の 40 道府県は減少しているが、中でも青森、秋田、山形、高知の 4 県は▲20%以上減少する見込みとなっている。

③ 診療所・外来患者数の 2020 年に対する 2045 年の増減状況の主題図



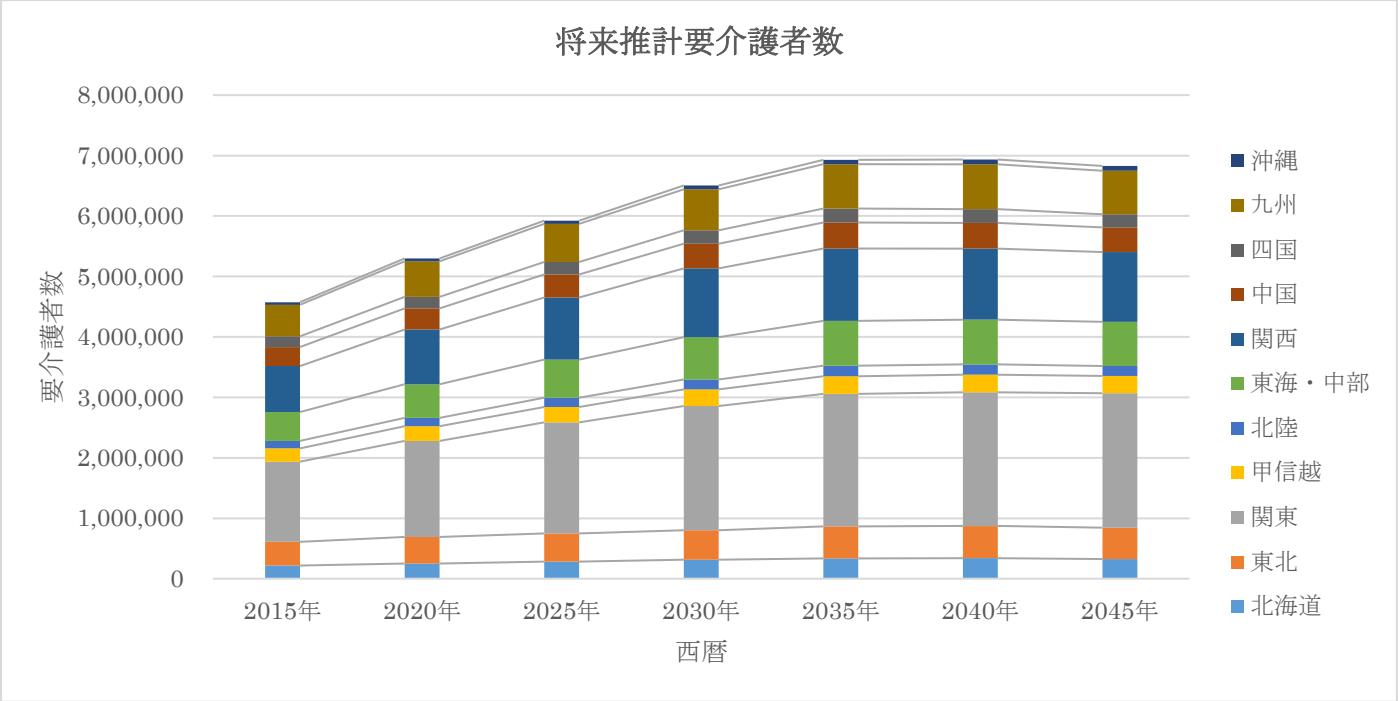
・6 都県が増加している。内訳は、東京、埼玉、神奈川、愛知、滋賀、沖縄。病院・入院患者数は+10%以上増加している都県に対応している。

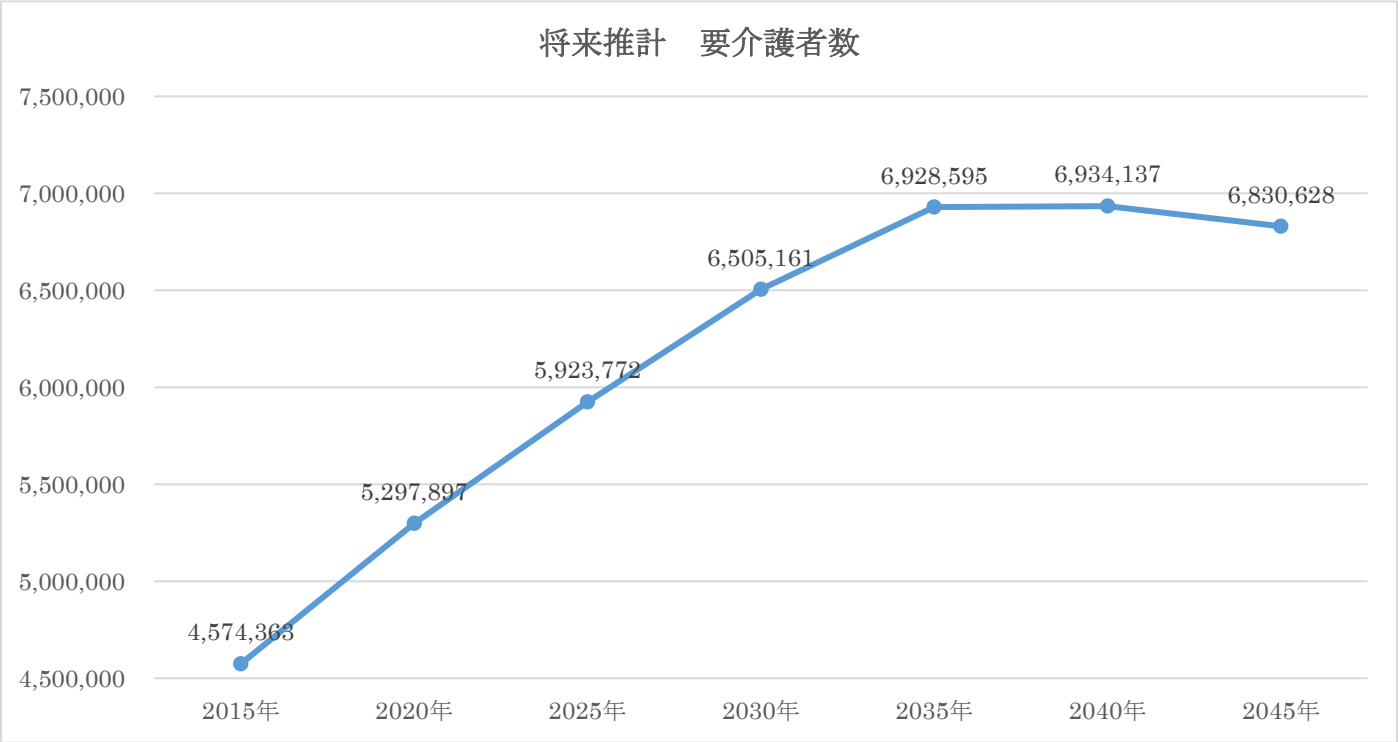
・それ以外の 41 道府県は減少しているが、中でも青森、秋田、高知の 3 県は▲20%以上減少する見込みとなっている。

【将来推計要介護者数】

2020 年～2045 年の市区町村別将来推計人口に基づき作成した将来推計要介護者数データを分析しています。

1．全国の将来推計要介護者数。全国の要介護者数の将来の推移を分析しています。

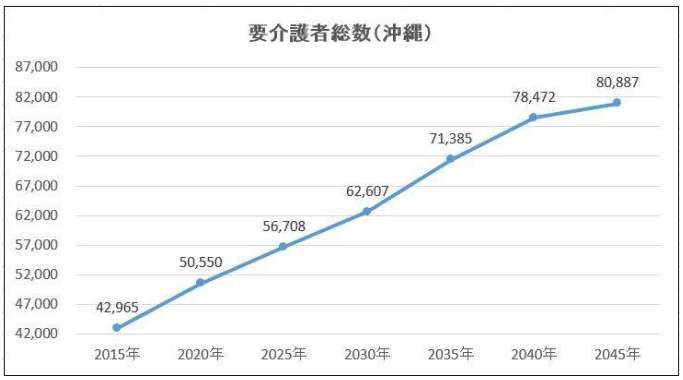




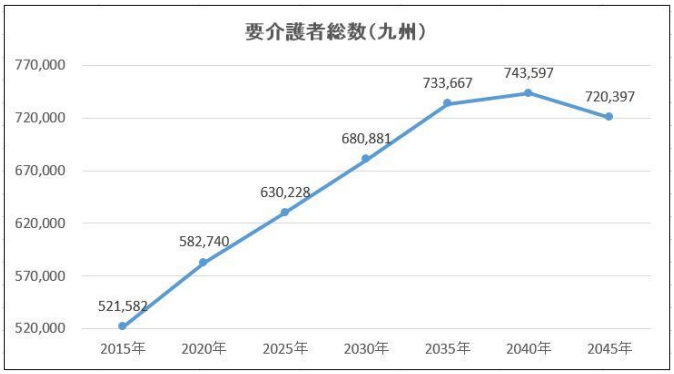
・全国の要介護者数は 2035 年にピークに達し、その後暫減します

２．地方別の将来推計要介護者数。地方別に要介護者数の推移は異なる

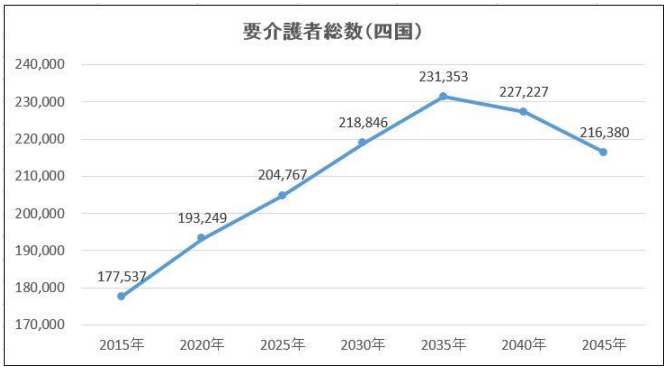
① 関東、沖縄は、常に増加。尚、関東は 2040 年以降　暫増する。



② 九州、東北は、2040 年でピークになり、その後減少する。



③ 四国、中国、北陸は、2035 年でピークになり、その後減少する。

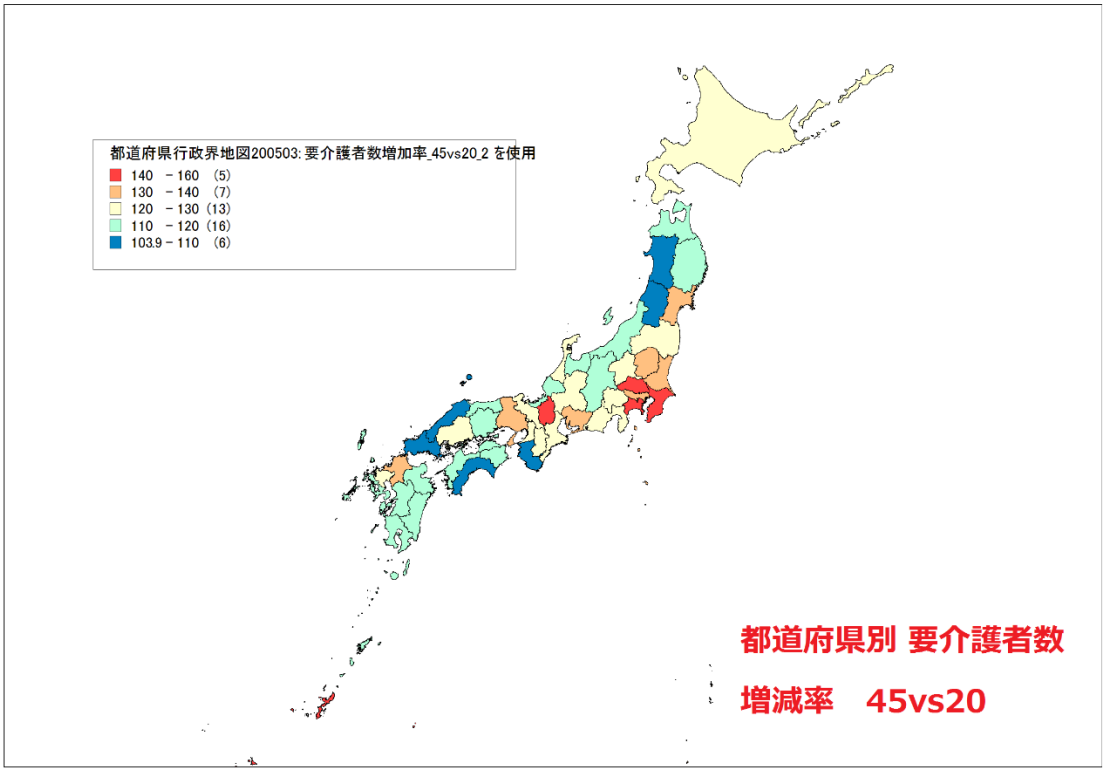


④ 甲信越、北海道は、2035 年、2040 年でピークになり、その後減少する。

⑤ 関西、中部は、2035 年でピークになり、その後暫減する。

3．都道府県別の将来推計要介護者数

2020 年に比べて 2045 年の要介護者数は 47 都道府県で全て増加しています。



・埼玉、千葉、神奈川、滋賀、沖縄の 5 県は＋40%以上と最も増加します。

・秋田、山形、和歌山、島根、山口、高知の 5 県は＋10%以下と最も少ない増加です。

考察

人口が著しく減少すると共に、高齢者人口が著しく増えることとなり、国自体が年老いた、活力のない状況になることを非常に危惧します。少子化に歯止めをかけ、出生率を高めて多子化に反転することが急務です。又、外国人の積極的な受入も推進する必要があります。

医療の病院の入院については、2030 年まで増加後、2045 年までは安定した需要が見込まれますが、病院及び診療所の外来は 2025 年まで増加後、2030 年より減少に転じることを考慮しておく必要があります。

介護については、2035 年まで増加後、2045 年までは安定した需要が見込まれます。